

ボッカッチョの *Il Filostrato* における Dolce について

西村 政人

0. 序論

ボッカッチョの作品 *Il Filostrato* に使われている語に dolce がある。この語はこの作品のコンコーダンスによると、本文で6回使用されている。この語の意味は辞書によると、1. sweet 2. soft 3. mild 4. gentle の意味がある。しかし、その意味は捉えがたく、どのような名詞を修飾するかによって異なる。組み合わせを変え、異なる意味合いをもたせてこの語が何度も使われている。作品の英訳を参照しても dolce を単に sweet と訳してあるだけでその意味は判然としない。また dolce は dolce+名詞の形で現れる。この時この表現が何を間接的に暗示しているかを文脈から判断する必要がある。本稿の目的は各用例を精査し、その文脈的意味を明らかにし、どのような名詞と共起しているかを明らかにすることにある。さらに「声としてのことば」¹ という観点から考察を加え、この表現が頻繁に使われる意義を考えたい。

1. 修飾される名詞

Dolce が修飾する名詞に注目して分類調査する。

A. 神, 主君, 友人

ti priego, dolce e caro mio fratello, (2-140)

愛しい, 私の親しい, お兄上様²

-S'io ho, bel dolce amico, fatto cosa (3-60)

親愛なる, わが友よ,

Oh me, Amor, signor dolce e piacente, (4-33)

ああ, 愛の神よ, 甘美で, かつ心地よい主よ

このグループに属する用例をまとめたものが下の表である。Dolce の辞書的意味とその語句が文脈で暗示する意味があればそれを示した。

部 (Parte)	表現	辞書的意味	暗示する意味
2-106	il dolce sire	やさしい ³	愛の神
2-140	dolce e caro mio fratello	親愛なる	パンダロ

3-60	bel dolce amico	親愛なる	トロイオロ
4-33	signor dolce e piacente	やさしい	愛の神
4-98	tuo dolce amico	親愛なる	トロイオロ
4-127	Dolce amico	親愛なる	パンダロ
4-158	dolce mio signore	親愛なる	パンダロ
5-23	la mia dolce amica	親愛なる	クリセイダ
6-6	o dolce amico	親愛なる	トロイオロ

トロイオロとクリセイダは恋人、トロイオロとパンダロが友人関係、パンダロとクリセイダが従兄関係である。それぞれの関係で dolce が相手呼びかける時に使われる。これらの場合は「親しい」の意味がこめられている。「愛の神」に対して用いれば「やさしい」の意味となる。

B. 愛する人, 愛

Poi cominciava: -Dolce l'amor mio, (3-67)

それから彼女は更に続けた。私の愛しい方よ、

このグループに属する用例をまとめたものが下の表である。

部 (Parte)	表現	辞書的意味	暗示する意味
2-74	il dolce amore	気持ちよい	トロイオロとの恋
3-67	dolce l'amor mio	恋しい	トロイオロ
4-88	dolce l'amor mio	恋しい	トロイオロ
4-92	dolce mio amore	恋しい	トロイオロ
4-166	dolce amor mio	恋しい	クリセイダ
6-13	suo dolce amadore	恋しい	トロイオロ

トロイオロとクリセイダは愛し合う仲である。相手を「愛しい、恋しい方」と呼びかけ、聞き手にも印象づけているのである。

C. 幸福

in te avere omai, dolce mio bene. (7-72)

甘美なる僕の幸福よ、あなたを得られる希望があるのか、

このグループに属する用例をまとめたものが下の表である。

部 (Parte)	表現	辞書的意味	暗示する意味
3-57	Dolce mio ben	気持ちよい	トロイオロとクリセイダの関係
4-36	dolce bene	気持ちよい	トロイオロとクリセイダの関係
5-24	o dolce bene	気持ちよい	トロイオロとクリセイダの関係
7-72	dolce mio bene	気持ちよい	トロイオロとクリセイダとの関係

これらの表現はクリセイダとの関係を暗示している。ふたりの恋人同士としての幸福をも表している。

D. 希望, 思い

o non t'avessi, dolce mio disio, (4-88)

わが愛しき希望の方よ,

ここでの結果をまとめたのが次の表で、この表現は恋しい相手を暗示している。

部(Parte)	表現	辞書的意味	暗示する意味
3-28	dolce mio disio	恋しい	トロイオロ
4-88	dolce mio disio	恋しい	トロイオロ
4-124	Dolce mio disiro	恋しい	クリセイダ
5-59	dolce mio disio	恋しい	クリセイダ
7-9	Pensier dolce nel desire	気持ちよい	トロイオロとクリセイダの 関係
7-67	dolce mio disio	恋しい	クリセイダ

E. 楽しみ, 喜び

vivo, lontan dal più dolce piacere (1-6)

あの、甘美な喜びから、遠く引きはなされ

con dolce festa e con ardente gioco, (3-30)

甘美な喜びと、また、熱烈な嬉しさで、

ここでの結果をまとめたのが次の表で、この表現は恋の喜びおよびクリセイダを暗示している。

部(Parte)	表現	辞書的意味	文脈
1-6	dolce piacere	気持ちよい	恋の喜び
2-104	dolce goia	気持ちよい	クリセイダ
3-30	con dolce festa	気持ちよい	恋の喜び(トロイオロとクリセイダが会えた喜び)

F. 安らぎ

chiamando sempre quella dolce pace, (2-58)

あの甘美な安らぎを、呼んでいるのが見えるのです。

ここでの結果をまとめたのが次の表で、この表現はクリセイダを暗示している。

部(Parte)	表現	辞書的意味	暗示する意味
2-58	dolce pace	気持ちよい	クリセイダ

2-101	dolce pace	気持ちよい	クリセイダ
-------	------------	-------	-------

G. 命, 魂

deh, abbraccia tu me, dolce mia vita (3-43)

ああ, 優しい, 私の命よ,

o dolce anima mia, o sol conforto (5-24)

おお, 甘美な, 僕の魂よ,

ここでの結果をまとめたのが次の表で, この表現はトロイオロとクリセイダを暗示している。

部 (Parte)	表現	辞書的意味	暗示する意味
3-43	dolce mia vita	やさしい	トロイオロ
5-24	dolce anima mia	気持ちよい	
5-25	dolce anima bella	気持ちよい	クリセイダ

H. 吐息

si che per te li suoi dolci sospiri (2-60)

彼女の, 甘美な吐息が, そなたによって

ここでの結果をまとめたのが次の表で, sospiri「息」が相手のことおよびふたりの愛を暗示している。日本語でも「甘い息」という表現があるので理解が容易である。

部 (Parte)	表現	辞書的意味	暗示する意味
2-60	dolci sospiri	甘い	クリセイダ
3-74	A sospir dolci della mia salute	甘い	二人の恋の甘いため息

2. 分析

1の調査から dolce が複数の名詞と共起し, 「呼びかけ」として使用されているのが明らかになった。呼びかけは直接相手の名を使うことも可能である。しかし, ボッカッチョは相手の名を使わず, 相手のことに間接的に言及する表現方法を用いている。そのため dolce+名詞が繰り返されている。ではなぜこの表現形式が多用されるのか。それは決まり文句によって人に記憶させることに関連がある。聴衆の記憶に残るように, また彼らの想像力をかきたてるために「形容詞+名詞」の表現を使うのである。BからHまでの例がそれを物語っている。それぞれの場合 dolce は, 「親愛なる, かわいい, 心地よい」などの意味を表す。味覚の「甘い」と意味よりも, 人の感覚に訴える意味で使われている。

3. その他の例

ここで扱う例は1で挙げた例のようにある特定の名詞を修飾する傾向が見ることができないものである。ここでは dolce を含む表現を誰が使っているかを中心にまとめ、その語が使われた文脈を考察する。

A. クリセイダの発言

Deh, ben mio dolce, perché si diffidi? (4-157)

ああ、親愛なる愛しい方よ。どうして、あなた様は疑い深いのですか。

d'allontanarmi dal tuo dolce aspetto, (4-158)

甘美な、あなた様の御姿から、遠ざかることを、

クリセイダの発言に現れた dolce をまとめ以下の結果を得た。2-74を除いてトロイオロを暗示している。

部(Parte)	表現	辞書的意味	暗示的意味
2-74	dolce cosa	甘い	
2-117	nelle braccia dolci	美しい	トロイオロの腕
4-157	ben mio dolce	親愛なる	トロイオロ
4-158	dal tuo dolce aspetto	気持ちよい	トロイオロ
4-161	dolce mio riposo	気持ちよい	トロイオロ

B. トロイオロの発言

o dolce luce e del mio cor fiammella: (2-88)

おお、甘美なる光よ、僕の心の、親愛なる火炎よ、

ti priego doni, dolce mia speranza. (2-97)

美しき、わが期待の君に、お願いします。

トロイオロの発言に現れた dolce をまとめ以下の結果を得た。5-37, 7-62を除いてクリセイダを暗示している。7-71は日本語の「甘いキス」と同じである。

部(Parte)	表現	辞書的意味	暗示的意味
2-88	dolce luce	気持ちよい	クリセイダ
2-97	dolce mia speranza	美しき	クリセイダ
3-17	d'ogni dolce vestigio	気持ちよい	愛の記憶
3-54	dolce motteggiare	気持ちよい	クリセイダ
4-45	'mio conforto	気持ちよい	クリセイダとの関係
5-37	dolce primavera	気持ちよい	
5-62	La dolce vista	気持ちよい	クリセイダ

7-62	Li dolci canti	気持ちよい	
7-62	dolce mio bene	気持ちよい	クリセイダ
7-71	pe' dolci baci	甘い	トロイオロとクリセイダのキス。
7-71	'l dolce ragionare	気持ちよい	トロイオロとクリセイダの語り合い。

C. 作者

per me appaia il ben del dolce regno (3-1)

愛の神の、甘美な王国のその恩恵が、

ella il guardava con sì dolce aspetto (3-3)

実に、甘美な表情で、彼女が、彼を見つめていたのだ。

トロイオロとクリセイダに間接的に言及するために、作者もこの表現を使っているのが下の表からわかる。

部(Parte)	表現	辞書的意味	暗示的意味
2-35	dolci parole	甘い	
3-1	dolce regno	甘い	愛の神が住む王国
3-3	dolce aspetto	美しい	クリセイダの表情
3-33	O dolce notte	気持ちよい	ふたりの逢瀬
3-94	dolci frutti	甘い	トロイオロとクリセイダの関係
6-1	sua dolce salute	気持ちよい	クリセイダ
8-2	la dolce sua ed unica intendenza	気持ちよい	クリセイダに対する恋
8-3	'l dolce tempo	気持ちよい	クリセイダとの逢瀬
9-1	di dolce versi	気持ちよい	

D. パンダロ

e 'l dolce fine voglio che tuo sia (2-32)

その甘美な結末は、君のもの、願っているよ。

che questo tempo sì dolce e sincero (4-46)

これ程、甘美で、しかも真摯な、こうした時が、

次の表はこのグループの結果をまとめたもので、この表現が二人の恋と王国を暗示している。

部(Parte)	表現	辞書的意味	暗示的意味
----------	----	-------	-------

2-32	'l dolce fine	気持ちよい	トロイオロとクリセイダが愛し合う関係
3-1	dolce regno	甘い	愛の神が住む王国
4-46	questo tempo sì dolce e sincero	気持ちのよい	トロイオロとクリセイダが愛し合う関係

各グループの例からもわかるように、ここでも相手の名前を出して呼びかけず、dolce+名詞の表現を呼びかけとして使い、相手およびトロイオロとクリセイダの愛に間接的に言及している。これがボッカッチョのひとつの特徴であることはすでに指摘した。Dolceは味覚表現としてよりも、感覚の表現である。聴覚を通して聴衆が物語のイメージを持つことを作者は目指したのである。

4. 結論

これまでの筆者の調査で明らかになった事実をまとめておく。

(1) Dolceが修飾する名詞については傾向がある。その主なものを次の通りである。

Dolce + 名詞
sire signore amico amore amadore disio bene pace anima sospiro

(2) 修飾する名詞によって dolceの意味は決められる。Dolce本来の味覚を表す「甘い」という意味よりも、「親愛なる、気持ちよい、恋しい」の意味で使われている。さらに dolce+名詞で表された文脈上暗示するものは、主として「トロイオロ、クリセイダ、二人の愛の関係、恋の喜び」である。

(3) これらの表現 dolce+名詞は、相手の名前を使わない、間接的な呼びかけ表現となっている。これはボッカッチョの特徴ある表現形式である。間接的に表現することは聴衆に誰のこと(何のこと)について言及しているのかを想像させる役割を果たしている。

(4) 「声の文化」では口頭で話をする事そして記憶可能なことが必要である。一度述べた詩行は忘れないように絶えず反復しなくてはならない。名詞に形容詞をつけ、同じ表現を繰り返すことは、聴衆が詩行を思い出すことを可能にしているのである。

注

1. 「声の文化」は"orality"の訳語である。桜井直文・林正寛・糟谷啓介訳『声の文化と文字の文化』藤原書店、1997に使われている。
2. 作品の引用は Vittore Branca. *Boccaccio Caccia di Diana Filostrato: A Cura di Vittore Branca*, Milano: Arnold Mondatori Editore, 1990.

から、日本語訳は、岡三郎『フィローストラト』国文社、2004からそれぞれ引用した。
3. 岡三郎は「甘美な」と訳している。

参考文献

- apRoberts, R.P., and Anna Bruni Seldis. *Giovanni Boccaccio Il Filostrato: Italian Text Edited by Vincenzo Pernicone Translated with an Introduction by Robert P. apRoberts and Anna Bruni Seldis.* New York & London: Garland Publishing Inc., 1986.
- Branca, Vittore. *Boccaccio Caccia di Diana Filostrato: A Cura di Vittore Branca.* Milano: Arnold Mondatori Editore, 1990.
- Griffin, N. E and Arthur Beckwith Myrick. *The Filostrato of Giovanni Boccaccio: A Translation with Parallel Text by Nathaniel Edward Griffin and Arthur Beckwith Myrick: With an Introduction by Nathaniel Edward Griffin.* New York: The University of Pennsylvania Press, 1978.
- Havely, N.R. *Chaucer's Boccaccio: Sources for Troilus and the Knight's and Franklin's Tales.* Cambridge: D.S. Brewer, 1980.
- 草皆伸子訳. 『イタリア語の歴史 俗ラテン語から現代まで』白水社, 2008.
- 徳井淑子. 『色で読む中世ヨーロッパ』講談社, 2006.
- 中尾佳行. 『Chaucerの曖昧性の構造』松柏社, 2004.
- Nishimura, Masahito. *A Concordance to Filostrato. Grant-in-Aid for General Scientific Research (C). Edited by Masahito Nishimura. Programmed by Katsutoshi Nakamura.* Toyohashi University of Technology, 1996.
- 岡三郎訳. 『フィローストラト』国文社, 2004.
- 桜井直文・林正寛・糟谷啓介訳. 『声の文化と文字の文化』藤原書店, 1997.
- Surdich, Luigi. *Giovanni Boccaccio Filostrato: A Cura di Luigi Surdich con la Collaborazione di Elena D'Anzieri e Federica Ferro.* Milano: Gruppo Ugo Mursia Editore, 1990.
- 吉村耕治編著. 『英語の感覚と表現—共感覚表現の魅力に迫る—』三修社, 2004.